

■ 書 評



学級担任のための
発達障害支援ガイド
— 自閉スペクトラム症のある
子どもが学校生活で輝く
ために—

デボラ・ファイン,
ミシェル・A・ダン 著
神尾陽子 監訳,
岩渕デボラ 訳
星和書店
2020年8月 424頁
本体価格 3,600円+税

本書は、米国の教師向けに自分の担当する通常学級に自閉スペクトラム症のある子どもを迎えることになったときに役立つよう2007年に執筆されたガイドの翻訳である。自閉スペクトラム症とその治療についての基本的な理解から、担任教師の役割、学校と親、支援者との連携の重要性など、子どもの特性に応じた適切な教育・支援をどう組み立て運用するかといった学校教師のかかわりの実践方法の具体例までが系統的に解説されている。原著者らは、認知神経科学的な観点から長く自閉スペクトラム症の臨床と研究の両方で国際的な第一人者として携わってきた。監訳者は、長くわが国の自閉スペクトラム症研究の第一人者として指導的な役割を果たしてきた1人である。

本書は、「第I部 自閉スペクトラム症について知っておくべきこと」と「第II部 教室での自閉症の子ども」の2部構成になっている。第I部は、自閉スペクトラム症について一般の教師が知っておくべきこととして、自閉スペクトラム症の特性、随伴症状、併存障害、家族への影響、治療の方法について、包括的に説明している。原書が出版されたころは、米国精神医学会の精神障害の診断と統計マニュアル (Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders: DSM) が第5版に改訂される前であったが、改訂される前の自閉スペクトラム症の概念についての議論が最も盛んであった時期であったため自閉スペクトラム症の概念についても丁寧に説明されている。そして、感覚の異常や認知、言語の特徴、注意欠如・多動症との関連などを含め、自閉スペクトラム症に特徴的な課題も包括的に解説されている。また DSM の改訂

に関連する内容については訳注でも丁寧に説明がなされている。自閉スペクトラム症に関しては、従来社会的コミュニケーションの問題がクローズアップされることが多かったが、認知神経科学的なバックグラウンドをもつ原著者らの立場からの説明は、ある意味全世界共通の普遍的な自閉スペクトラム症の特性とその対応に関する説明であり、学級担任だけでなく、特別支援教育の教師、養護教諭、校長や教頭などの管理職といった教育関係者だけでなく、教育学部の学生や医療・福祉など他の療育の関係者にとっても有用であろう。このことは、第II部第15章「自閉症に関する迷信とよくある質問 (FAQ)」にもあてはまる。第II部では、学校での問題を扱っている。当然、わが国と米国では教育のシステムは異なるが、教育の場の設定や認知と運動の問題、言語の問題、学業、ソーシャルスキル、教室での問題行動の解決法など、自閉スペクトラム症の子どもにとって時代や場所を超えて普遍的な多くの課題を扱っており、参考になるであろう。

近年、自閉スペクトラム症の特性が社会に与える影響は大きく、ひきこもりや不登校といった問題においても、自閉スペクトラム症をはじめとする発達障害の影響が注目されている。これは、認知神経科学的な観点から自閉スペクトラム症の臨床や研究に携わってきた関係者からすれば、以前から想定されてきたことではあるが、ひきこもりや不登校のように、安定して継続的な支援を受けることなく、学校という社会生活から離れたところで生活するようになると、その特性に気づかれにくくなるため、自閉スペクトラム症の特性をふまえてどのように支援していくかが大きな課題となる。

学校には自閉スペクトラム症の子どもたちが多くおり、その特性の程度や随伴・併存する課題は一人一人異なる。本書の視点としては、自閉スペクトラム症をもつ子どもに対する教育の目標が、教室での問題行動をなくすことだけではなく、その子どもの生涯にとって意味のある学びを創ることにあるが、このことは子どもだけにとどまらず、自閉スペクトラム症をもつ成人にも当てはまる。教師が自閉スペクトラム症児へのかかわり方の手本を示すことで、他の子どもたちにとっても多様性を育み受け入れる教育実践となるであろう。

(高橋秀俊)